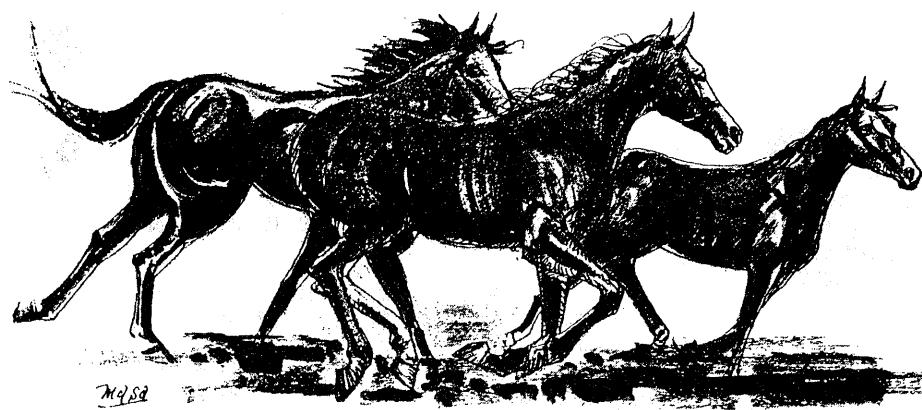


’78
年
中
華
演
出
部



昭和53年はテンポイントの悲劇で幕を開けた。大スターを失った空白は大きく、次代を担うスターの出現が大きく期待されたが、八大競走の勝馬はことごとく変わり、それを反映した各部門のトップハンデにスター不在が象徴的に表われている。その中にあって5歳牝馬のインタークロリアは、無事年間を通じて活躍、最後の有馬記念で2着に入り60キロにランクされたことは特筆に値する。古牝馬に60キロのハンデが与えられたのは、47年のジョセツ以来6年ぶりである。

西	田	秀	夫	(栗 東)
各	務	富	也	(〃)
佐	久	間	喬	(〃)
甲	佐	勝	勇	(美 浦)
高	宮	房	房	(〃)
柴	田	裕	裕	(〃)
岡	部	文	文	(〃)
岩	片	士	士	(本 部)
覓		男	男	

司会／編集部

——この二頭に続くと考えられ

るのは何か。

岩片 京成杯とプリングSの二重賞優勝のタケデンだろう。

西田 タケデンと並ぶのにアグネスホープがいる。

岡部 每日杯優勝とダービーが2着。この二頭に遜色はない。

——では1^キ下の58か。

西田 1^キ差では重い気がする。

各務 2^キ差は見なくてはいけないだろう。57でいい。

甲佐 テンメイは菊花賞の後、阪神大賞典に出走して2着だった。それと比較してキャプテンナムラは見事に勝った。

西田 二頭の比較では、菊花賞の時点ではテンメイの方がやや上位と

考えられたが、年度が終わってみれば、キャプテンナムラは1^キ上だ。

算 京都4歳特別優勝、ダービー3着のカンパーアリはここに入るか。

西田 カンパーアリをここに入れるのは無理がある。

算 52年のカネミノブはダービー3着、菊花賞5着で57^キだった。

高宮 その辺でトップとの2^キ差が響いてくる。

西田 しかし、カネミノブの場合は勝てないまでも、カンパーアリと比べて無事で堅実な成績を残した。

甲佐 タケデン、アグネスホープキャプテンナムラ57^キに続くのは力

ンパーアリでいい。

佐久間 1^キ差の56。これと同格

ならキタノコンゴウを考えているが

どうだろう。

岩片 日本短波賞優勝と菊花賞が4着。菊花賞で後方から追い込んで

来た脚は見応えがあった。

柴田 キタノコンゴウとカンパー

リの56は、異論はまったくない。

——では56はカンパーアリとキタノコンゴウの二頭ですが、牝馬で入るような馬はあるか。

高宮 52年の4歳牝馬のレベルは例年に比べて非常に高かった。58のアイノクレスピンから3^キ差は見ないといけない。

算 牝馬の最高は55^キと考えてい

るので、今の意見に同意だ。

5歳以上

——次に5歳以上の部門に移り

ますが、ここも52年のテンポ印ント、トウショウボーオーのような傑出した存在がなく終わりました。一応、春の天皇賞がグリーングラス、秋はテ

ンメイ、そして有馬記念をカネミノブが制しました。

算 53年はその意味で各馬の評価

は難しい。

高宮 天皇賞馬ということなら、

52年秋のホクトボーオーが62だが、同じ程度じゃないだろうか。

柴田 他に朝日チャレンジCと京

高宮 ただ、モデルスポーツが牡馬との競走で好成績を上げている。

これを56に入れられないこともない。

競馬が強かつたし、年間6勝の成績

も素晴らしい。

柴田 ダービー卿チャレンジTの

競馬が強かつたし、年間6勝の成績

も素晴らしい。

算 その通りだが、やはり二頭の

クラシック馬より上位にランクでき

るかと考えれば、もう一つ訴えるも

のに欠けるようだ。

西田 いいところだろう。

(以下略)

各務 47年秋のヤマニンウエーブ

が、京都記念を勝つて62。

岩片 カネミノブは有馬記念の他に、アルゼンチン共和国杯と日本経

済賞の二重賞。歴年のフリーハンデ

と比較して、二頭の天皇賞馬より1^キ上で62のトップでもいい。

算 グリーングラスは5戦1勝で

トッピングでもおかしくはないが……。

高宮 実際に宝塚記念ではグリーングラスに対して、庄勝している。

佐久間 京都記念、鳴尾記念、宝

塚記念と三連勝したときの強さは、

53年の白眉とも言えるものだった

岩片 かと言つて、秋競馬を見る

と春とは正反対。そのあたりをどう勘案するかで、この馬の評価はガラ

けない。

算 グリーングラスは常にファンに支持されながら実績を残してきた。

佐久間 48年の有馬記念に勝った

ストロンゲイトが60^キだった。

柴田 カネミノブはそれよりは上位にランクすべきだ。

岡部 タニノチカラが有馬記念を

勝った年は、京都大賞典も庄勝して

いて64^キだった。

算 53年はそこまでは行けない。

西田 グリーングラスとカネミノブは、62で並べてもいい。次はテンメイだが1^キ下の61でいいのではないか。

算 53年はそこまでは行けない。

岡部 天皇賞以外は春のマイラー

ズC2着が主なところ。グリーング

ラスとの1^キ差は仕方ない。

——その次に来る的是エリモジヨージだが、この馬の評価は大変難しいのではないか。

算 秋になつてからの成績は見るべきものはないが、春一連の重賞路線では庄巻だった。そう軽視はできない。

各務 春の強さから見れば、単独

トッピングでもおかしくはないが……。

高宮 実際に宝塚記念ではグリーン

グラスに対して、庄勝している。

佐久間 京都記念、鳴尾記念、宝

塚記念と三連勝したときの強さは、

53年の白眉とも言えるものだった

岩片 かと言つて、秋競馬を見る

と春とは正反対。そのあたりをどう

り変わるだろう。

高宮 天皇賞の重味ということも考えれば、62と61に上位二頭を置いてもいい。

——しかし、エリモジョージは

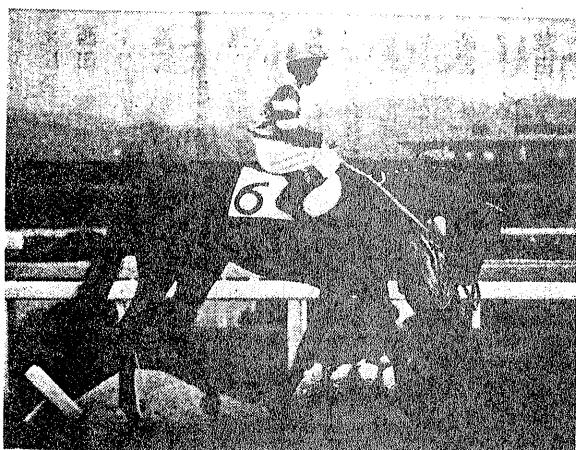
51年春に天皇賞に勝っている。出る資格を持つていい。

高宮 それなら上位四頭を同格にランクしてもいい。

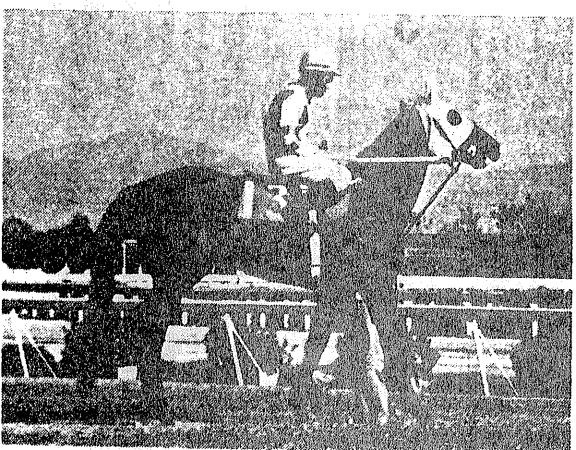
西田 それは少々無理だろう。テンメイは1%下だ。

佐久間 エリモジョージはほとんど常に60%以上を負担し、京都記念60%、鳴尾記念を62%で勝った。

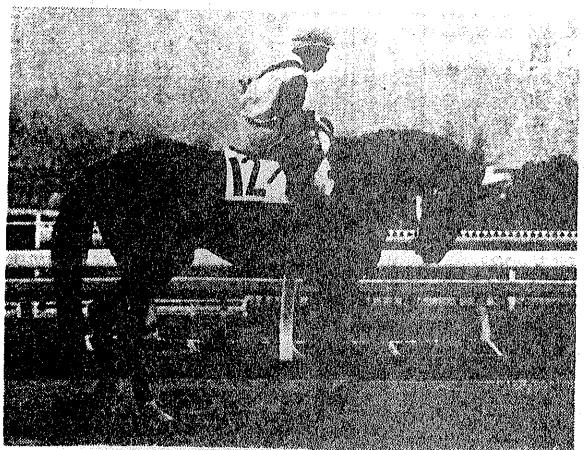
西田 その点でテンメイより上位にランクし、グリーングラスと同格とするのは異存ないが、カネミノブとも同じとなるので、どうかなと考へてしまふ。カネミノブの単独トップは?



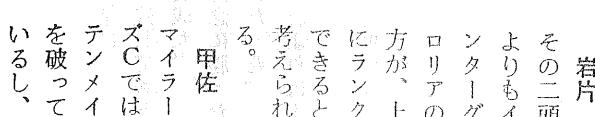
エリモジョージ



カネミノブ



グリーングラス



岩片

その二頭よりもインターグロリアの方が、上にランクできると考へられ

柴田 確かに古馬については、天

皇賞を中心と考えるべきであるが、51年は前年秋の優勝馬フジノパーシアを、1%上にランクしたことがあつた。

岡部 ダイヤモンドS、宝塚記念、

高松宮杯とこれも三連勝した。

覧 カネミノブ、グリーングラスにエリモジョージを加えて、三頭が同格でもいいと思われるが。

西田 負担重量を克服するのも能

力の大事な一つ。では三頭は62で同

格でいい。

——上位四頭は決定したが、次

に来るのは何か。

西田 毎日王冠を勝ち秋の天皇賞2着のプレストウコウだろう。

各務 プレストウコウが実際に実力馬であることは認めるが、春の天

皇賞では競走中止、重賞が毎日王冠

だけでは60は重過ぎないか。

柴田 その毎日王冠でのレース振りはいわば横綱相撲と言ふべきもの。2着にはカネミノブというのだから、プレストウコウはやはり軽視することはできない。

覧 オーレブンとはいえ、中山でのレース振りも素晴らしい。

西田 縱然された秋の天皇賞もあわやと思わせる2着。この馬の実力は相当評価したい。

高宮 次は春シーズン、アメリカJCCと目黒記念に連勝したカシュウチカラも問題はない。

覧 いつもプレストウコウと五角の競走をしている。60でいい。

岩片 そして春秋の天皇賞にそれが3着。この実力には高い評価を与えたい。

覧 テンメイから1%差でいいの

か。

西田 プレストウコウについてはいいと思うが、カシュウチカラはどうだろう。もう1%下げていないのではないか。

高宮 アメリカJCCでは現実にグリーングラスを破っている。それから見ると3%差はつかない。2%の差の60%を与える。

——栗東所属馬で60%にランクされる馬はない。

西田 テンメイに続くのは、リュウキコウとハシコトブキの二頭だが、2%差はどうしてもあるようだ。

覧 プレストウコウとカシュウチカラが60で、インターフロリアはどこにランクしようか。

高宮 ハシコトブキ、リュウキコウ、インターフロリアの3頭は並べていいのではないか。

岩片

その二頭よりもインターグロリアの方が、上にランクできると考へられ

る。

甲佐

マイラー

ズCではテンメイを破つているし、

秋の京都牝馬特別では牝馬同士とは
いえ圧勝した。

西田 有馬記念2着は高く評価し

てやりたい。

高宮 52年の4歳牝馬は歴年に比

べても相当強い世代だ。

西田 最近最も高い評価を受けたの

は、50年のイットーで59^{*}だった。

各務 この年イットーは8戦3勝

で、スワンSと高松宮杯に優勝、最

後京都牝馬特別4着以外は、全て

3着以内に入る成績だった。

高宮 イットー59なら、むしろイ

ンターグロリアの方が上だろう。

柴田 テンメイから2^{*}差はつか

ない。

西田 猛い牝馬の世代なのだから、

60^{*}でも少しも差つかないので

はないか。

西田 では60^{*}はインターグロリ

ーでは最後に3歳馬に移りま
す。ここも4歳、5歳以上同様、レー
スごとにことごとく勝馬が変わり、
最後に東西で頂点に立つたのが、ビ
ンゴガルーとタマモアサヒでした。

西田 52年は東がギャラントダン
サー、西がバンブトンコートが首位

で56^{*}だった。

西田 この二頭は戦績、強さとも3

歳馬の中では群を抜いていた。

柴田 その前年のマルゼンスキー

と比較した場合、同じ外国産馬なが

らギャラントダンサーは1^{*}差つけ

て、東西とも並べた。

高宮 マルゼン

スキーの強さは、

とても3歳馬とは

思えないほどで、

42年のキタノダイ

オー以来の57^{*}に

ランクした。

各務 53年はほ

ぼ例年のレベルで

いいだろう。

朝日杯3歳Sと阪

神3歳Sの勝馬が

トップで、55^{*}が

適当なところだろ

ア、カシュウチカラ、プレストウコ
ウの三頭。

西田 次はリュウキコウ、ハシコ
トブキでいいだろう。

佐久間 ハシコトブキは朝日チャ

レンジC、京都記念、愛知杯の三つ

の重賞競走の勝馬だ。

岩片 1^{*}下の59^{*}の資格は十分

にある。

3歳馬

岡部 リュウキコウは京都大賞典
と目黒記念を連勝した。いいんじや
ないでしょうか。

柴田 ここに52年秋の天皇賞馬ホ
クトボーライは入らないだろうか。

各務 勝鞍がオープンの3勝では
そう評価できない。

西田 1^{*}下の58ではないか。

(以下略)

ビンゴガルー、西がタマモアサヒで、
ともに55^{*}。

範 ところが次の54^{*}にクンクし
たい馬が、いつもの年より多い。

佐久間 一応4頭考えている。朝日
杯3歳S2着のサクラアケボノ、京
成杯3歳Sジェットバージ、牝馬で
は福島ナンバー1のナイスダービー
とシーバードパーク。

岡部 朝日杯3歳Sではあわやと
思わせたシーバードパークは、クラ
シック戦線での活躍が期待できる。

西田 関西ではここは5頭。牡
馬では北海道3歳Sのテルノエイ
ト、デイリー杯3歳Sのニホンピロ
ポリン、ニチドウタロー。

甲佐 阪神3歳Sでは期待に反し
たがボールドエーカンも入れたい。

西田 外国産馬としては、関西で
初めて出た強い馬だ。

各務 牝馬では現在休養中だが、
函館3歳Sのシルクスキーも入る。
早期の戦列復帰が望まれる。

西田 確かに54^{*}台が東西合わせ

て9頭というのは、最近にないこと

だ。これらの馬が無事に成長してく

れば、54年のクラシック戦線は、

かなりの盛り上がりが見られるだろ

う。

西田 53年は全般的にやや華やか

さに欠けたところが感じられる。是

非このムードを54年は吹き飛ばして

欲しい。

’78年のフリーハンデ

※牝 馬 特特 入馬
④父内國產馬 ④外國產馬
抽せん馬 ④公營出身馬

(計48頭)

8